

四谷の

千枚田だより



第 62 号



手鏡 柳二作

十五名、四名) にふれあい広場のツツジの補植、草刈り、草取り等の実施。午前中の作

業は十一時開始、午後一時にはふれあい広場に集まるようお願いし、それぞれ持ち場で作業開始。昼食は志おちや(小山志お子)を班長(十名、三名)におにぎり部隊がつまみ食いしながら握ったおにぎり(ミネアサヒ)と泰っちや(小山泰弘)を班長(地元六名)に大釜で炊いた猪汁に全員、美味い、旨い!と感激。昼食終了を見計らい(舜)のリードで交流会へ、まず、行政で一番身近で、大きな支援を頂くために平賀鳳来総合支所副支所長兼経済建設課長に挨拶をお願いした。平賀課長は支援の気持ちは充分持ち合わせているが、逼迫した市の情勢からなかなか期待にそぐわなく申し訳ない。その分、担当課職員がこまめに働くからご勘弁を」と挨拶。続いて(舜)の四谷の千枚田の概要説明後、まこちや(松下誠事務局)の軽快な司会で交流会に突入。アストラゼネカ社の新入社員各々が自己紹介、抱負が語られた。それぞれの挨拶は「職場で働くより、この千枚田で、よい酸素を腹一杯吸える労働奉仕のほうが好き」と要約した。受け入れ側としては丸地の姉さんが病

アストラゼネカ社

地域に貢献

当日の活動概要

十月七日、心配された天気もよし。九時半集合の地元メンバーも、九時には集結。それぞれの配分した持ち場の準備を淡々とこなした。さすが、千枚田を守り継いだ百姓だ。ものを言うより体が動いている。



予定の十五分前、アストラゼネカ社員一〇五名がバス二台で到着。「よう、おいでたのん、元気だったかん」と出迎えた。アストラゼネカ社員も三年目、馴

染んだ笑顔でバスから降り立った。全員揃ったところで支援活動の開始。まず、受け入れ側から小山泰弘保存会長から今年で三年目を迎えた支援活動に感謝。怪我などないようにと挨拶。続いて新城市鈴木経済部長の大変な労働力を課せられている新城市の宝「四谷の千枚田」の労働支援に感謝と歓迎挨拶。支援側の村上キャプテンから力は足りないが社員一同、精一杯頑張り、お役にたきたいとの挨拶があった。

続いて、本行事の総括、小山(舜)から段取りの説明(総括班九名)。まず、今日一日は、お互いに名札に記した愛称で交わしてもらう。作業員等は県ふるさと指導員への支援物資であり、充分活用していただきたい。一班は伸ちや(村雲伸一)を班長(本社社員四十六名、地元四名)に千枚田入り口付近のツツジの補植、田んぼの干草切りとはぎの片づけ。二班は寺久保のまあちや(今泉雅男)を班長(二十四名、三名)に四阿周辺の草刈り、草取りを終わり次第、丸地の姉さん(子宮ガン)、乳ガンと闘いながら、千枚田を耕すことを生き甲斐に頑張っている)の水田整備。三班は庄ちや(高橋庄一)を班長(二

十五時十分、全ての作業を終了。全員で記念撮影の後、高低差二百メートルの千枚田を散策しながら入り口まで徒歩で下り、支援側、地元の各班長のお礼の言葉、最後は連合お助け隊林リーダーの締めで全ての行事を終了。再会を願い、見送りをした。



十五時十分、全ての作業を終了。全員で記念撮影の後、高低差二百メートルの千枚田を散策しながら入り口まで徒歩で下り、支援側、地元の各班長のお礼の言葉、最後は連合お助け隊林リーダーの締めで全ての行事を終了。再会を願い、見送りをした。

稲刈り 三題

九月二十八日、「みんなの奥三河」に参加した都市部の親子連れはシリーズ最終回の稲刈りを田吾作の指導で楽しんだ。

都市交流「みんなの奥三河」

「見て・感じて・学んで！奥三河の素晴らしさ・大切さを」新城設楽地区では、食の基本計画・地域推進プランに基づき、都市と農山村とが協働・連携した新たな交流のモデルづくりに平成十八年から新体験交流ガイド「みんなの奥三河」を実施している。



原田史樹君撮影

九月三十日、連谷小学校児童九名は三枚の学校田の稲刈りを行い、刈

り取った稲は学校に持ち帰り「はぎ掛け」を行った。



十月四日、愛知東農協主催の「子ども農学校」の稲刈りが高橋庄一の指導により行われた。

調理師学校の脱穀

豊橋調理製菓専門学校は、四谷の千枚田で授業の一環として田植えから脱穀までの過程を(舜)の指導で取り組んでいる。

学校の教育方針として、将来、プロとなり、お客さんに食膳を提供する立場にある生徒たち、自らが稲作を通じた育農を実体験する事により「食の安全安心」に一層の関心を持つことを主眼に実践している。

十月九日、生徒達は、はぎに干した稲の脱穀を行った。



榑田サミット

十月十六日、十八日、第十四回国榑田(千枚田)サミットが長崎市・雲仙市で開催されます。サミット出席者

新城市鈴木経済部長

鞍掛山麓千枚田保存会

小山泰弘、小山舜二、村雲伸一、

松下誠、今泉雅男、高橋孝行

この会議には、新城市からの助成を受けて出席します。

どでかい「はいすがり」の巣

六日の晩、蜂とり名人の小山旭男さんから見たこともない、どでかい「はいすがり」の巣を採ったから見にこんなと連絡が入った。

見て驚いた、何と幼虫がいっぱい詰まった冬至段が三段、全部で八段もあり総重量二kgのギネスものだ。さすが、蜂採り名人の旭男さん夫婦も「山獲り」で二kgは初めてだと大喜びだった。



はいすがり：学名クロスズメバチ

行 平成二十年十月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会

発 文 責 小山舜二

S-koyama@r6.dion.ne.jp